

採択拠点の拠点形成概要及び採択理由

【分野名：医学系】

| | | | |
|---|--------------------|------|-------|
| 大 学 名 | 大阪大学 | 整理番号 | F - 1 |
| 拠点のプログラム名称 | 感染症学・免疫学融合プログラム | | |
| 中核となる専攻等名 | 医学系研究科分子病態医学専攻 | | |
| 事業推進担当者 | (リ-ダ-) 審良 静男 外12名 | | |
| <p>(拠点形成の概要)</p> <p>感染症学と免疫学はそれぞれ急速な進展を遂げてきたが、分離独立して発展した結果、感染症成立の総合的な理解、適切な対策がなされず、新興・再興感染症等の新たな問題に対して解決法を見出せない状態にある。本拠点では、感染症学と免疫学を対象とし、感染に対する生体防御システムと病原微生物を総合科学として表裏一体に解析することにより、感染病態形成の包括的な理解と人為的な免疫系の操作による感染の制御を目的とした新たな学問拠点を形成する。そして、その研究成果をトランスレーショナル・リサーチへと発展させ、感染症予防技術の確立、エイズ、マラリア、細菌感染などの重要な感染症の克服、アレルギー・自己免疫疾患の克服により、国際社会への直接の貢献をめざす。また、感染症学と免疫学の両知識を備えた、国際的に活躍できる独創的な研究者を育成することを目的とし、感染症学・免疫学に特化した国際的な感染症研究の拠点形成をめざす。</p> | | | |
| <p>(採択理由)</p> <p>抗生物質による制圧のみでなく、自然免疫、獲得免疫など、生体の防御反応による克服は、現在の大きな課題である。感染症学と免疫学の融合を目指す時代の要請に合致し、優れたプログラムである。研究代表者のみならず、共同研究者も国際的に優れた研究実績を持つ者が多く、拠点として国際的な貢献が期待できる。</p> | | | |